

2021年 「水と森と人が共に輝き、 活力あふれる自立したまち」 になるために必要な 環境面からのアプローチ



「自然豊かで空気がきれいなところが好き」
「いろいろなところから美しい景色
を見ることが出来る」
「学校から見える景色が宝」
「水がおいしいのが宝」

総合計画の策定に当たって、まちづくり町民会議や町民や団体、中高生へのアンケート、高校生ワークショップなど、皆さんからたくさんの意見をお聴きしました。その中には、冒頭のような意見が多く、皆さんがまちの豊かな自然環境を誇りに思っていることが分かります。豊かな自然は、わたしたちの生活を直接潤してくれるばかりではなく、産業面でも支えてくれています。豊かな自然環境を糧に、まちの基幹産業として発展してきたのが農業と観光。自然環境を守り、次代へつないでいくことは、まちの安定的な発展にもつながるといえることです。自然環境の保全と活用。一見相反するこの二つのことを両立させていくことは、まちの未来のために欠かせないことです。総合計画の環境面での基本目標は「人と自然が共生するまちづくりを進めます」。基本目標実現のためのまちづくりの柱が「自然環境の保全と活用」「循環型社会の構築」なのです。



景観緑肥のヒマワリ

た集客施設の整備（観光事業者）
農業関係者と行政の連携による美しい農業景観の創出
水と森に

- ### 森を育み 水を守り 環境と景観を創出
- わが町の環境を支えていくための柱「自然環境の保全と活用」。具体的にはどのような取り組みが進められているのでしょうか。
- まちの財産である森林の保全
 - 森林の適正な管理と植林、間伐など（森林所有者）
 - 森林組合のほか森林所有者やNPO（非営利団体）などが行う森林づくりの支援（町）
 - 水環境の保全
 - 学校や企業、行政との連携強化による環境教育
 - 植樹祭などの森づくり活動への参加
 - エコツーリズムなど、自然環境の保全と活用の推進に必要な人材の育成
 - 屈斜路湖適性利用ルールの確立
 - まちの美観や自然景観に配慮した集客施設の整備（観光事業者）
 - 農業関係者と行政の連携による美しい農業景観の創出



美留和の廃棄物処理施設

代表される豊かな自然を守り、豊かな自然を将来に引き継いでいくことを目的とした取り組み。これらは、皆さんと町が協働して進めていくものです。

限りある資源を有効に活用して 環境負荷を低減

もう一つの柱が循環型社会の構築です。自然資源利用による新エネルギーの創出、ごみの減量化などにより、豊かな自然環境に対する負荷の低減を目指します。

- 自然再生エネルギー活用への積極的な取り組み（農業などの各事業者）と、支援・協力（町）
- 弟子屈町地域エネルギービジョンに基づいた取り組み
- 資源循環型農業への取り組み
- 3R（Reduce／減らす）Reuse／繰り返し使えし「Recycle／再資源化」運動への取り組み
- 「自然の番人宣言」事業所の普及

これらも、皆さんと町との協働により進めていく取り組みです。



未来に残したい宝がある

わたしたちが住む弟子屈町阿寒国立公園の約56%を抱え、広大な屈斜路湖、神秘的湖摩周湖噴煙を上げる硫黄山など、類いまれなる豊かな自然に恵まれたまちです。美しいふるさとを守り、次代につないでいくことはわたしたちに課せられた命題であり、昨年策定された第5次弟子屈町総合計画の中でもまちづくりの柱として「自然環境の保全と活用」「循環型社会の構築」がうたわれています。皆さんと町が一体となった「環境」への取り組みあらためて考えてみましょう。身近なところから、できることがあります。

環境への負荷を抑える

ごみを減らしていくことは、最も身近な環境保全への取り組みといえます。

また、豊かな自然資源を生かした新エネルギー推進への取り組みも、今後一層進めていかなければなりません。

摩周湖クリーンウォーク2013



ごみを集めながらのウォーキング



職場などのグループに分かれて



道路脇の茂みにもごみが

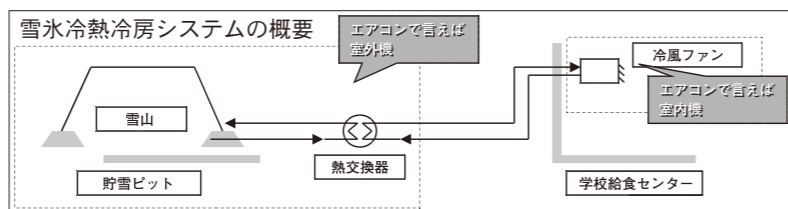
町主催の「摩周湖クリーンウォーク2013」が6月1日、町内各地の国道や道道沿いで行われました。摩周湖周辺の環境保全対策や自然の番人宣言事業、シニックバイウェイ弟子屈エリアの活性化事業の一環として行われたもので、今年で8回目です。今回は一般町民の方や小・中学生、園児のほか、事業所などから約600人が参加。社会貢献活動として8年連続参加している弟子屈建設業協会(辻谷智之会長)からは、62人が参加しました。参加者は16のグループに分かれ、摩周湖や川湯温泉、仁伏などのコース全70kmを歩き、空き缶やペットボトル、タバコの吸い殻などのごみを930kg集めました。また今年も、弟子屈建設業協会がトイレカーを2台提供したほか、弟子屈町未来こども協議会(目黒厚子会長の会員がお茶のサービスを行いました。

環境月間(6月)の全町的事業として定着した摩周湖クリーンウォーク。今後も多くの皆さんの参加のもと、未永く継続していきたい取り組みです。

給食センターに雪水冷熱冷房導入

取り壊すにも多額な費用がかかるため、他の利用方法を模索してきましたが、雪水冷熱冷房のための貯雪ピットとして生まれ変わりました。排雪を約600ト貯めることができ、給食センターの厨房室を6ヶ月くらいまで冷房できると試算しています。(来年以降は4月から使用を開始する予定)

学校給食センターに「雪水冷熱冷房」が導入され、6月から本格的に稼働を開始しています。安全・安心な食品づくりのため、国などから義務付けられた衛生管理指標があります。管理指標の一つに「調理環境」があり、室内を「湿度80%・温度25℃以下」に保つことが求められます。給食センターでは、調理の際に熱をたくさん使用するため、気候が冷涼な本町でも、エアコンを使わなければ1年中室温を25℃以下に保つことはできません。エアコンの動力源は電気であり、使用すると地球温暖化の原因物質である二酸化炭素が排出されます。町では「雪を冷房に使えるかどうか、北海道大学の先生のアドバイスなどをいただきながら検討を重ね、補助冷房として有効に利用できる」という結論に至りました。昨年着工した設備の導入作業が完了し、道内初の給食センター「雪水冷熱冷房」として注目されています。



旧弟子屈温泉プールを再利用した貯雪ピット

森を守り育てる

森林には、木材という資源を生み出す役割のほか、水源のかん養(水を地下にためること)や土壌の保全、地球温暖化の原因の1つである二酸化炭素を吸収するなど、たくさんの役割があります。森林が持つ多様な公益的機能が十分に発揮できるよう、森を守り、育てる取り組みが必要です。

弟子屈町植樹祭



1本1本丁寧に



寒空の下 手分けして



ササの根に苦労しながら

弟子屈町植樹祭は自然の貯金箱が6月4日、元・仁多小学校分収林で行われました。緑のふるさとづくりを目的に、町と弟子屈町緑化推進委員会(会長・徳永町長)が主催して毎年行っています。今回も二トリ北海道応援基金の助成を受けて開催され、約100人が参加。肌寒い中、グイマツとカラマツを掛け合わせた改良種の苗2千100本を丁寧に植樹しました。徳永町長は「私たちの手で1本1本植えて育て、孫や子の世代に豊かな森をつないでいきたい」と話していました。

苗木の無料配布会



苗木を求めて長蛇の列が行われました。

苗木の無料配布会が6月5日、役場前と川湯支所前で町内の緑化推進のために毎年行われています。配布されたのはびびっくりグミとハスカップという果樹の苗木で、両会場で140本が用意されました。寒さに強く丈夫で、実も楽しめるそうです。会場では緑の募金も行われ、集まった方々が募金に協力していました。

卒園記念植樹



大きくなれと願いを込めて

感謝状を受け取る近藤会長(左)

おひさま保育園(清水節子園長)年長児による卒園記念植樹が6月7日、同園園庭で行われました。緑のふるさとづくりの一環として行ったものです。摩周建設業協会(近藤明会長)から弟子屈町緑化推進委員会に寄贈されたエゾヤマザクラ16本を植えました。また、同協会の近藤会長に、緑化推進委員会会長の徳永町長から感謝状が贈られました。

豊かな自然を守りたい
人と自然が共生する
まちづくりのため

町の将来計画として策定された「第5次
弟子屈町総合計画」では、町の宝である自然
環境の保全と地域資源としての活用によっ
て、人と自然が共生するまちづくりを目指
しています。

2年前の東日本大震災・東京電力福島第一
原子力発電所の事故以来、全国的に自然再
生可能エネルギーなど新・省エネルギーの
開発・導入が進んでいます。町では震災
発生以前から、地球温暖化防止に向けた普
及啓発事業を重点施策として位置付け、地
域特性を生かした新エネルギー・省エネル
ギー導入の取り組みを進めてきました。

率先的な取り組みとしては、2011年
に改築した弟子屈中学校のエコスクール
化で、さまざまな省エネ技術に加え、自然再
生可能エネルギーである太陽光発電を導入

しています。今回、学校給食センターに導入
した雪氷冷熱も、この自然再生可能エネル
ギーの一つです。雪を利用して冷房熱源と
して利用する今回の取り組みはほとんど前
例がなく、技術的には最先端の設備です。

自然再生可能エネルギー利用の技術・設
備はまだまだ導入費用が高く、現段階では
経済性を見出せないことが多いのが現状で、
普及には時間がかかります。しかし、町では
教育の現場に率先的に導入し、環境・エネ
ルギー教材として活用することに大きな意義
があるものと考えています。

将来を担う子どもたちが、自然再生可能
エネルギーを実際に見て、触れて、身近に感
じながら成長していき、やがて地域全体に
「循環型社会」の意識が広まっていくことを
目指しています。

住宅用太陽光発電システム設置費補助金 7月1日から追加募集

町では、住宅用太陽光発電システムを設置する町民の方に補助金を交付しています。
今年度については既に定員に達していましたが、この度、下記の通り追加で補助金交付を行います。補助対象・補
助額など、詳しくはお問い合わせください。

▶申し込み方法／7月1日(月)から受け付けを開始します。7月8日(月)までに受付件数が定員を超えた場合は、7月
1日～8日受け付け分で抽選を行い、交付者を決定します。7月9日(火)以降の申請については予算の範囲内で随
時受け付け、先着順に交付決定します。

□申し込み・問い合わせ先／役場環境生活課環境係 ☎482-2934(課直通)まで。



木を育てる

石川 悟さん
(75歳・仁多)

酪農家
所有山林の管理と育成に日々精進
1994年から弟子屈町森林組合理事
今年、道の指導林家に認定された

酪農業の傍ら、所有する24・59畝
の山林を手入れする石川さん。初め
て植林を行ったのは、中学校を卒業
したころ。祖父と一緒にカラマツを
植林したそうです。以来、所有林に
足しげく通い、枝打ちをしたり、幹
に絡みつくブドウのつるを払った
り、大切に木を育ててきました。「手
をかけてあげれば、伸びも違いま
す」とカラマツを見上げます。そのそ
ばには、寒さに強いと選んで3年ほ
ど前に植林したアカエゾマツが、小
さな枝を広げていました。

「以前、木を切って草地にしたと
ころ、雨水の流れが速くなり、草地
が傷むようになりました。水を抑え
る木の力をあらためて感じました」
と石川さん。また、自宅裏の防風林
を伐採したところ風当たりが強く
なり、木が持つ暴風の機能を実感し
たこともあったそうです。こうして
木の大切さを知り、木に魅了されて
きた石川さんにとって、木を育てる

ことは「生きがい」だといいます。
「木はすぐには大きくなりません。
孫に伝えていくような気持ちで
ないと育てられません。地球温暖化
の原因となる温室効果ガス削減の
意味からも、木は1本でも多く育て
ていきたいと思っています。また、
1本でも多くの木を植えてほしい
とも思います。木を育てることは、
大げさなようですが地球を守るこ
ともあります」環境問題に関心の
ある石川さんは他にも、例えば古新
聞を出すときに、新聞と一緒にリサ
イクルできる紙製のひもを使うな
ど、小さな心掛けを重ねています。

「あれも私が植林したものです。
夏場にはあの木の下に子牛を放す
のですが、とてもいい木陰をつくっ
てくれて、子牛たちも涼しそうで
す」そうやって石川さんは、自宅裏で
葉を茂らせる3本の木を見せてく
れました。木の恩恵を知り、木と身
近に暮らす喜びがありました。



エネルギー
を生み出す

阪口 正明さん
(50歳・奥春別)

酪農家
町内で初となる家畜排せつ物活用の
バイオガス発電プラントを建設
環境と臭気に配慮した酪農に取り組む

乳牛170頭を飼育する酪農家
の阪口さん。昨年10月、家畜排せつ
物を活用したバイオガス発電プラ
ントを敷地内に建設しました。この
プラントは、家畜排せつ物を発酵さ
せてバイオガスを生成し、電気と温
水に転換するもの。発酵後の消化液
は、臭気のない高品質な液
体肥料(液肥)として利用できます。

阪口さんがバイオガスプラント
に注目したのは、家畜排せつ物の臭
気対策のためでした。家畜排せつ物
は通常、堆肥化(固体の肥料にするこ
と)やスラリー処理(液体の肥料にする
こと)をして、有機質肥料として耕
作地へ散布・還元されます。資源循
環型の農業として環境負荷軽減に
役立ちますが、堆肥化やスラリー処
理、散布作業の際に強烈な臭気が発
生することがあり「周囲には別荘地
が多く、気を遣っていました」と阪口
さん。臭気軽減には家畜排せつ物を
無機化するしかないと考え、バイオガ

ス発電プラントへと行き着きます。
5年ほど前から考えていたとこ
ろで起きたのが、2011年の東日
本大震災。東京電力福島第一原子力
発電所の事故を見て「日本でのエネ
ルギーや電気に対する考え方が変
わっていく」と確信し、建設に踏み切
りました。

昨年11月から乳牛110頭分の
排せつ物を利用して発酵を始めて
いますが、阪口さんは「敷地内に家畜
排せつ物を置かずに済むのがいい」
と実感を含みます。発酵後の消化液
も、液肥として散布してもほとんど
臭気がしないそう。電力は全量を売
電しているほか、温水は牛舎などで
利用し、現在は灯油を一切使って
いないそうです。

阪口さんは「電気と温水は最終工
ネルギー。まちの基幹産業である農
業と観光の振興という側面からも、
バイオガス発電は有効だと思っ
ています」と話していました。